

穂
の
国
の

転校生

HONOKUNI NO TENKOUSEI

*In 1994, Oriza Hirata proclaimed "the drama of the 21st century begins here" on publishing his new work entitled "Transfer Student".
20 years have passed. Did anything really happen with his work as he said?
If so, what kind of change we have witnessed so far? And what kind of progress did it bring to us?
Now it's time to reveal the truth by the young actors living in the 21st century.
Hoping this re-born "Transfer Student" is going to be another "beginning" for next 20 years.*

2014.11.1-3

報告書

穂
の
国
の

転校生

高校演劇大会上演後の時間に、キャスト・スタッフ募集告知。広報とよはしに募集告知掲載

オーディション申込締切

- 4月18日[金] 17:00 一次キャスト・ワークショップオーディション1/14名参加
- 5月17日[土] 13:00~17:00 一次キャスト・ワークショップオーディション2/12名参加
- 5月18日[日] 10:00~15:00 ◎講師: 広田淳一 / 講師助手: 笠井里美、村井まどか
- 5月25日[日] 11:00~17:00 二次キャスト・ワークショップオーディション/24名参加
- ◎スタッフ希望者も、キャスト希望者とともにワークショップを受けた。その中からキャストに転向した参加者も。



スタッフ打合せ ◆演出、舞台美術、照明、舞台監督、制作

スタッフ打合せ ◆演出、音響、舞台監督、制作

キャスト確定

アマヤドリ『うれしい悲鳴』DVD上映会1

アマヤドリ『うれしい悲鳴』DVD上映会2

◎演出家である広田淳一・演出の『うれしい悲鳴』DVD上映会。二日間に分けて、高校生キャスト・スタッフたちが鑑賞。



高校生キャスト&スタッフ対象ワークショップ

1日目(講師: 広田淳一)
2日目(講師: 杉山至・木藤歩)
3日目(講師: 広田淳一)
4日目(講師: 平田オリザ)

◎平田オリザによるワークショップのインパクトは相当強かったようだった。ここでも、高校生キャストと高校生スタッフが一緒になってワークショップを受けていた。(講師助手: 稲垣千城、吉田小夏)

チラシ撮影

稽古

平日 17:00~21:00
土日 13:00~21:00

- 1週目 稽古開始。アップでは主に全体の息を合わせる目的で、重点的におこなった。また、相手へのオファーの出し方、そして人からの受け取り方を体得する稽古が繰り返された。台本を手にしての立ち稽古も。キャストイングをするにあたり稽古では、場面ごとに配役を変えて様子確かめていた。
- 2週目 週頭には配役がほぼ確定。全員で演劇をつくるにあたっての基本的な姿勢や考え方などがこの時期に伝えられた。二人一組でヘアになり、全組が同一のシーンを演じあう稽古が行われた。この稽古によって、同一のものに対して、自分と人とのアプローチが違うことを体感したようだった。
- 3週目 衣装サンプルが到着。過去の上演映像を解析することで台本が改訂され、再度配布された。広報の一環として、高校生キャスト・スタッフと演出家がラジオ収録に臨むことも。ほぼ固まっていた配役のうち、2人の役を替えて最終決定とした。台風により稽古が中止になる日もあった。
- 4週目 衣装ほぼ確定。ネクタイ・リボン等は調整段階。稽古場である創造活動室Aに本番で使用する回転盤が設置された。実際のセットを使った稽古により、高校生キャストの身体への馴染みが深くなり、演出の幅も広がった。この週に初めて通し稽古を行った。また、2週続けて台風で稽古が中止に。
- 5週目 衣装確定。全員の衣装が到着するまで、代わりに各自の学校制服を着て稽古をしたことも。回転盤を使った場面転換の稽古をすることが多くなり、シーンが繋がり全体が見えてきた。小屋入りに向けて集中した稽古が行われた。が、この時期は学校の試験や、修学旅行による欠席者も多かった。
- 6週目 劇場入りと同時に本番で使用するアートスペース内にセットが組み上げられた。とは言え参加者は高校生であるため、稽古自体は学校が終わった後の夜から。本番同様の舞台装置、照明、音響が設置され、その中で稽古を重ねることで加速的に作品が仕上がっていった。

本番

合計821人の来場があった

1◆集客数173人
2◆集客数157人 / 3◆集客数152人
4◆集客数184人 / 5◆集客数155人

◎ポストーク出演者
公演1— 平田オリザ、広田淳一
公演2~5— 広田淳一、高校生キャスト

本番映像上映会

本番から約3ヶ月後、本番映像上映会が催された。高校生キャスト・スタッフが再び集まり、本番の会場でもあったアートスペースにて鑑賞した。時間が経ったからこそ、改めて冷静に振り返ることができ、先へ向かうきっかけとなったようだった。

高校生と舞台作品を創造するということ

芸術文化プロデューサー 矢作勝義

2013年夏、穂の国とよはし芸術劇場PLATが開館した年の夏に、高校演劇大会の東三河地区大会と愛知県大会が、主ホールにて開催されました。高校生たちはほぼ全員が集まった日のお昼休み、劇場前の広場で幾つもの円を作ってお弁当を頬ばっている図は圧巻でした。少子化が進んでいるといわれながらも、この地域にはこんなにも元気な高校生たちが大勢いるのではないかと。そして彼らこそが地域の宝であり、彼らが10年後、20年後の地域を支える人材に成長するため、劇場は何かできるのかを考えました。

まず二つ目に、多様な作品をプラットフォームで上演し、高校生が観劇できるような環境を提供するため、主催公演で高校生以下割引を設定しました。次に、これまで見聞きしたことのないような舞台芸術に関係することを体験し、新しい人と出会う場を提供するため、演劇や舞踊に関するワークショップやレクチャーなどを企画しました。



そして最後に、プロのスタッフと共に、作品を創造し上演する機会を提供するため、この「高校生と創る演劇 穂の国の「転校生」」を企画しました。プロの演出家と舞台作品を創造することを通じて、演劇に対する思想や哲学、方法論を体感し、演出とは、戯曲とは、俳優とは、スタッフとは、そして演劇とは何かなど、高校生活の中では出会うことがないような新しい視点と思考を獲得し、

自らが表現することに対して積極的に行動する力を獲得してくれることを期待しました。結果としては、十分以上に満足できるものになりました。ただし、それは予想外というのではなく、予想していた通りです。なぜなら、演出家を初めとするスタッフ達も本気でこの舞台に取り組んでいたからです。連日満席になった客席に物怖じすることなく、実力を遺憾なく発揮した本番はとても素晴らしいものになりました。結果として、この舞台を経験した高校生達が何を覚えることが出来たかは、これから何年後かに具体的に覚えてくると予想しています。ただし、その一端はこの報告書で紹介している高校生たちのアンケートの言葉の中にあると思います。この「穂の国の「転校生」」は始まりにすぎません。高校生達と本気で取り組むということ、時間も労力もエネルギーも必要なこと、す。しかし、そこから生まれてくる10年後、20年後の成果を楽しみにしつつ、高校生達が新しい一歩を踏み出すための助力になればと思います。この企画を続けていきたいと思います。

「穂の国の『転校生』」と過ごした幸福な時間について

脚色・演出 広田淳一



はい。どうも「穂の国の『転校生』」で演出を務めました。広田淳一です。この企画について少しばかり語らせてもらおうかと思うんですが、えー、結論から言えば、この企画は僕の演劇人生の中でも最大の幸福と言つていいような体験でした。なにせオリザさんのすばらしい戯曲があつて、劇場からは信じられないぐらいの充実したバックアップがいただけて、高校生たちは素直でやる気に満ちているし、おまけにスタッフは流のプロたちが並んでいる。と、こんなに幸福なことはないと思つてました。さらに、この企画は興行面でも芸術面でも、まず大成功と言つてよい結果を出せたんじゃないでしょうか。参加した高校生たちにとってもかけがえのない体験になったことでしょうか。僕としても大切な時間になりました。

やつてみて驚いたのは高校生たちが本当に忙しい！ということ。学校行事に習い事、塾に受験に修学旅行、とまあ、本当に思つて暇もないほどで、いやいや、高校生つてのはこんなにも多忙なものなんだなと、びっくりした。しかも、にも関わらず、わずか一ヶ月ばかりの稽古期間でこれだけの成果を出せたのはどうしてだったんでしょう？ いくつか、成功要因が挙げられると思います。

まず、企画が長期間に渡ったことはいの影響をもたらし、5月にオーディション、8月には夏のワークショップ、そして10月の本稽古、11月の本番、さらに翌年2月のDVD鑑賞会...といった具合に二年がかりでじっくりと企画が進んでいきました。そのことで高校生の側もだんだんと心身の準備が整つていったと思えますし、公演に対しての思い入れもどんどん育つていったんじゃないかと思えます。

加えて、手前味噌な話ではありますが、演出部のバランスがとてとても良かったんじゃないかと思つています。稽古場には常に僕の他に演出助手として女優が二人居て、さらに付きっきりの制作助手さん、高校生キャストに対して、とてもきめ細かな対応をすることが可能になりました。近すぎず遠すぎず、絶妙な距離感で稽古を進行することができたのは、とても良かったんじゃないかと思つています。僕にとって強烈な印象として残っているのは、なんと言つても高校生たちの正直さ！です。僕も演出家という職業柄、他人と踏み込んだやり取りをすることは慣れているつもりだったんですが、ここまでストレートにこちらの言葉、意図を全力で受け止め、それに対して全力で打ち返してくるというのは想像をはるかに超える体験でした。稽古期間中、何度か自分の影響力の大きさを感じて怖くなるような思いすら抱きましたが、それは同時に、とても大きなやりがいを感じた瞬間でもありました。人を信じるとか、人の期待に応えるとか、計算や打算ではない人間のシンプルなりとりを濃厚にさせてもらったように思えます。自分にとってはそれがこの企画における最大の収穫で、大きな大きな財産をもらったな、と感じています。ですので、今はもうこの企画に関わってくれたすべての方々へ、あらゆる方向に向けてお礼を言いたいような心持ちです。本当にありがとうございました。

「山田恵理」
松尾理代



①おとなしそうな容姿なのに台詞になると強気なしゃべり方をするとギャップの持ち主。これがまた、私服が可愛いんだよ。ホレちやうやい、や、りっちゃんは羨しません！
②宮本歩 ③私は今、堀北真希さんにまっています。可愛くて憧れます。
④20年後、私は俳優を志しています。今回、新しいことをたくさん知りました。もっと知識を得たいです。

「根本久美」
古田夏帆



①夏帆ちゃんはとても努力家です。稽古前にもしっかりと準備をしてきて、常に稽古を引っ張ってくださいます。私も頑張ろうと思わせてくれる人です！ ②神村友美 ③お風呂に入りにながら本を読むこと！寝ないよう気をつけなきゃ！ ④37歳！劇団四季に入団し、もがきながらも大好きな舞台の上に立っているだろう。夢を与えられる俳優でありたい。
①唯一、名古屋という遠い所からはるばる来てくれてる子です(笑) 頑張ってるので、温かしゃべってくれてあげてくださる目で見守ってあげてください(笑) ②羽田千尋 ③劇!! 観るのもつくるのも好きだし、感動ものも考えさせられるのも。 ④東京でバイトしながら劇やっているとします。結婚はしてない。お金に困ってそう。でも楽しく生きてる！

「堀田早苗」
奥田咲菜



東京でバイトしながら劇やってる

①常に前を向いて上を目指すリーダー的存在。いつも周りのことを見ていて、気づかしてくる優しい子です。②西川結実 ③可愛い文房具集めと、ラーメンズ!!! 好きな人と一緒に過ごして、好きなことを仕事にできて、いいなあ(笑)。あと生でラーメンズ見たい!



「向井京子」
琴屋菜緒子

①誰とも仲良くできることやん。宝塚が大好きで、語らせたら止まりません(笑) ことやんの明るさとステキな笑顔にいつもパワーをもらっています！
②早瀬さくら ③宝塚星組男役・天寿光希さんを見て、元氣と笑顔をいただくこと!! 憧れのニューカレドニアへの旅行を叶えてたい!あの青い海を見ながら、歌ったり踊ったりしてみたい♡
①キラキラの瞳、役やお稽古への真っ直ぐさ、さくらの花の様な笑顔の持ち主二人で広田さんのコラにいたすらした事は良い思い出です(笑) ②琴屋菜緒子 ③アニア、あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。稽古で話題になり見始めたから、マりました。④大好きな人たちと幸せを共有して過ごして、いいなあと思います。出会いを大切に生きていきたいです。

「鈴木真由美」
彦坂祐衣



①ゆいは少し抜けてて、でもそこが可愛くて、とってもおもしろい子。数少ない(?) 1年。個人的に意外だったのは水泳部ということ。おしゃべりばい。②伊藤渚 ③クラスの仲の良い子たちとバカをやつて、おしく弁当を食べること ④今と変わらなずジャニーズが好きで、全国を飛びまわっている...といいな!! 看護師になりたいです!!!



「瀨川みどり」
西川結実

①一目見ればあなたも溢れる包容力のトリー・コウその名も姉さん! 舞台の上でもみんなの中心となって引っ張ってくれます。マシガンタークもお楽しみに! ②白木菜々美 しみに! ③OGAの音「[emai]と、ぼ」と人間観察。④今はまだ見つかからない夢を見つけて、その夢を叶えるために頑張っているであらう!...ことを願う。



「沢田美幸」
早瀬さくら



「飯田尚美」
花井優海



①まよは、ちっちゃくて笑顔が可愛くて、ギャグ線も高い、みんなの妹的存在です。ツインテールにするの「となりのトトロ」のイメージが似合います。②田中友梨奈 ③勉強・スポーツ・読書 恋愛・休日にはゴルフと言いたいところですが実際は多趣味。④あまり想像はつかないけど、玉の輿の旦那さんを捕まえて背がモデル並みになって頭がいいお嫁さんになってることを期待。



「小島芳子」
兵藤真世

①まよは、ちっちゃくて笑顔が可愛くて、ギャグ線も高い、みんなの妹的存在です。ツインテールにするの「となりのトトロ」のイメージが似合います。②田中友梨奈 ③勉強・スポーツ・読書 恋愛・休日にはゴルフと言いたいところですが実際は多趣味。④あまり想像はつかないけど、玉の輿の旦那さんを捕まえて背がモデル並みになって頭がいいお嫁さんになってることを期待。



「秋山美和子」
宮本歩

①おもしろいのに優しい人です。周りの雰囲気をもっと上げてくれます。②松尾理代 ③学校の帰りに焼き芋を買い、計算ができてなくても予算オーバー。④育児とか家事とか仕事とか大奮闘の毎日。忙しいながらも大好きな家族と幸せな日々を送っていたい。私の家族みたいに。



「中島智恵」
白井なつ美

①いつも明るくハイテンション。その場を明るくできる。人のことを考えて行動できるので人の相談にのってたり、気をつけていたりして、皆に優しい。②花井優海 ③お菓子やパンを作ることに「女子力」じゃなくても食ただけ♡ ④今のまま変わらないんじやないですかね。たぶん、好きなこととして好きなもの食べて好きな生活送ってます。



「森田真紀」
羽田千尋

①背高くて、スレンダーで、モデルさんみたい。演劇部に入ってる。声がかっこいい。わからないところとかを優しく教えてくれるのでお姉ちゃんみたい。②奥田咲菜 ③夜更かし。結構遅くまで起きて、漫画とかテレビを見てます。④どうだろ... (笑) 声優になりたいと思ってるので、声優のお仕事できてたら最高ですね(笑)



「木下秀子」
神村友美

①しつかり者だが、どこか抜けているお茶目なかみとも一役に対する姿勢はいつも真面目で、妥協せず粘り強く木下秀子と向き合う姿は本当にカッコイイです。②古田夏帆 ③ないです。今は「転校生」のことで頭がいっぱいです。④表現することを仕事に出来たらいいな、と今は思っています。



「西岡ひとみ」
中神真智子

①とても親しみやすく、いい子だと思います。かっこいいところもありますが、笑顔や人柄など、可愛い面も多いように感じます。②鈴木彩音 ③本や戯曲を読むこと。面白い作品だとテンションが上がります! ④好きな人と結婚して子ども産んで+役者として舞台に立ち続けて充実した毎日を楽しみたい(笑)



「女子高生」という名の列車に乗って、いつか、この場所に立ったこと。

転校生

HONOKUNI NO TENKOUSEI
2014.11.1-3

「町田ミナ」
鈴木彩音

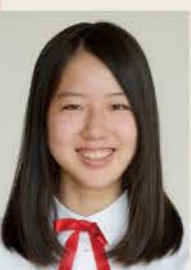


①にゃんこはギャップがある人です! 無口でクールな人かと思ったり実は人見知りだったり笑い上戸だったり。でも本当に優しくカッコーい人です!!
②中神真智子 ③絵を描くことです。隙あらば描いてます。たまに色もつけてます(笑)
④声優志望なので。そういうことに携わりたいからいいな、と思います。



「寺岡理恵子」
杉高茗

①めいさんは、私のパートナーで良かったです。困ったときは優しく声をかけてくれたりして本当に優しい人だと思いました。②伊藤渚 ③メロンパン!! いろんなコンビニやパン屋さんのメロンパンを食べることです。④大人になって、もっちゃんとしたことで悩んでいると思います。...だといいなあ。



「吉井晴子」
松坂瑠依

①いいひょんは本当にカワイイです!!! この「穂の国」の「転校生」キャスト&学生スタッフの中にも実はファンがたくさんいます(笑) かわいくて優しく、女子の憧れです♡ ②松井瀨奈 ③秋のファッションが好きでネットなどでもつい見ちゃう。④大好きなティズニーの近くに住んで、通っていると思います。ちょっとした時間にパークに行くのが憧れます。



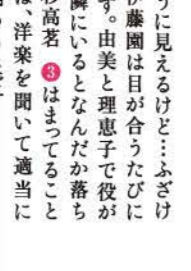
「田島めぐみ」
松井瀨奈

①年下とは思えないくらい大人っぽくて、しつかりしてます。演劇に対してすごくよく考えていて、真剣に稽古に取り組む姿に刺激を受けました。②松坂瑠依 ③アイドル鑑賞です! SK E48さんが大好きです。推しメンに会いたい!! (笑) ④36歳。可能性①→役者さん。可能性②→全く別のことをしたい。可能性③→F1カーレーサーに進化している。(?!)



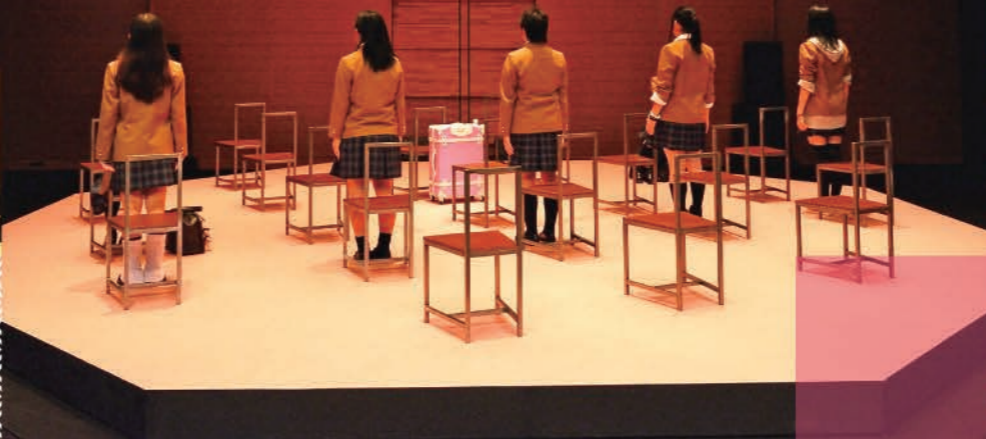
「大西由美」
伊藤由佳

①おとなしそうな見えるけど...ぶざけるの大好き。伊藤園は目が合うたびに愛顔してきます。由美と理恵子で役が近かったので、隣にいるとなんだか落ち着きます。②杉高茗 ③はまっていること ④20年後は、美しい2児の母になっていて、自分の理想の旦那さんと立派な家に住んで幸せに暮らしたいです!





穂の国の
転校生



集計結果 1

5月オーディション					
	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
日時	9	11	0	1	0

1 5月のワークショップオーディションについて

●セリフを言い、声の大きさなどを見られるものだと思うので、動きばかりでどれきましました。一人一人をしっかり見ていただいているように感じました。

●オーディションと聞いたのもっと堅苦しい感じかと思っただけ、みんなにぎやかに楽しめてきたのでとても良かったです。行く前の不安なんかどこかに行っちゃうくらい、とっても楽しかったです。



集計結果 2

8月ワークショップ					
	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
日時	12	8	2	0	0
回数	13	7	2	0	0
内容	20	2	0	0	0

2 8月のプレワークショップについて

●これから共演することになるキャストの人たちとも再会でき、これから大きなプロジェクトが動き出していく雰囲気にワクワクしました。

●短期間でしたが、これからやる事への心の準備や予備知識をつけることができた充実のWSでした。夏休み中だったので日時も無理なく参加できました。平田オリザさんの1日も私自身とても大きな時間でした。照明や舞台のことを知るWSも本番が近づくにつれ「あれってこういうことだったのか?」と思いつくことがありました。これらなければ、稽古に入ってから大変なことが多かったと思います。

3 稽古について

●1か月もあったので、初めての2週間弱はシアターゲームをたくさんして、体を使ったり、他の人と協力して何かをやったり、たくさん話して深く考えたり...と作品とはちよつと離れた稽古をして、自然と同じクラスの仲間のような関係になることができました。それはとても大きなことだと思います。たくさんさんの時間を用意してくださった分、土台作りがしっかり作れた気がします。残りの「転校生」の稽古も慣れないことばかりでしたが、PLATさんや(学生を含む)スタッフさんたちが素晴らしい環境を用意してくださったので、その分余計なことを考える必要がなかったので、舞台稽古だけに集中することができました。



集計結果 3

稽古					
	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
日時	15	10	0	0	0
回数	12	10	3	0	0
内容	21	4	0	0	0

●みんな忙しくて、なかなか集まれなかったのが残念です。もつと二人一人が意識を高く持つて、一度稽古を休むことがどれだけよくないことか自覚すべきでした。

●高校演劇経験者といっても、やることは全く非日常的で毎日が新しいことばかりで新鮮でした。プロの演劇と高校演劇はここまで違うのかと身を持って体験できました。またそれを自分の後輩に教えてあげられたらと思います。

4-1 公演を終えた現在の率直な感想

●本当に私変わったなって思いました。前までは、人前に出るのが嫌だし、上手く話すこともできなくて、とっても人見知り、できるのかな?って思いました。でも、なんとか出来たんだと思いました。

●公演が終わって2週間は燃え尽き症候群みたいなになりました(笑)。実はその頃に一度、平日、いつもなら稽古していた時間にアートスペースと創作Aをのぞく...ことは出来ないで、外をぐるっと半周歩きました。そして「転校生」のカケラもなくて、現実をつきつけられた感じがしてショックでした。そして、私たちは「転校生」から転校したんだな、思いました。私はいつも習い事はやめたくなくてやめていたし、学校から卒業するときも「早く卒業して進学したい」とか思っていた人なので、「終わりたくないのに終わってしまった」ことがこんなにも辛いのかと、味わったことのない感情を感じました。でも、いろんな人に公演を見てもらえて、この5月~11月3日に、いろんな人に会って、いろんなものに(大小ありますが)出会って、別



なりました。自分が以前お世話になった人が、キャストの知り合いであることが多く、公演を見に来て下さって再会出来たことも多かったのもうれしかったです。

れ...でも糸のようなもので「つながっている」感覚があります。たぐりよせれば会える、みたいな。個人的には「人間関係」って面倒なところもあるから一人一人思い入れはないようにさらっとやろう、とか思っていた時期もあって、その名残りもあつたのですが、人との出会いをもつと大事に、人との関係やつき合いをもつと丁寧にしようと思えました。それが私には多分大きな収穫だったと思います。また、私はけっこう挑戦することに臆病なところがあり、そのせいで、見えてた世界も限られていたのですが、この企画を通して、見える世界も広がりました、新しい視点も得られたかなと思います。あと行動力が少しつきました。あと、自分が以前お世話になった人が、キャストの知り合いであることが多く、公演を見に来て下さって再会出来たことも多かったのもうれしかったです。

4-2 この企画に参加することで当初あなたはどんなことを望み、何をしたいと思いましたが、また、それらは実現できましたか?

●プロの演出する舞台に立つて、自分の夢に近づきたい。「私は役者になることが夢で、舞台に立ちたくて応募して本当に立つことができたので、それは叶いました。近づきたいっていうのは、半々ですかね。プロの意識や技術との差は圧倒的だっていうのを自覚して、それでも役者になりたいって思ってたんで、結果的に近づいている気はします。舞台に立つたこと自体も大きな経験になって、自分にとつても大きな一歩になったと思います。



●私は演劇に初めて挑戦したので自分の中で新しい環境で自分を成長させることができたらしいなと思っていました。今回やってみて今まで持っていた演劇に対する先入観が間違いであったと考えを改められました。

●人に言葉で伝える、ということが苦手、口で言葉を発することはあまりしたくない自分を変えたい、という思いがありました。そして、今は、前よりも自分の思いや考えを、相手にはっきりと伝えることができています。まだまだですが、人と話すこと、コミュニケーションをとることが、前より増えた、自分の中では感じています。

5

今後、プラットに 対する期待・要望等

●プロ・第一線で活躍する役者さん、演出さんから教わる機会が欲しいです。また、舞台に立てる機会も。

6

その他、意見 メッセージ等

●豊橋にプラットができたこと、「転校生」が企画されたこと、自分が応募条件にあてはまっていたこと、たまたま応募のチラシを母が



見つけてくれたこと、オーディションに合格できたこと...色々な偶然が重なってこの作品に出演することができました。この運や縁を大切に、これからも自分のプラスになるものに参加したいと思います。



演出家からみた「穂の国の高校生たち」

演出家である広田淳さんに今回の公演について振り返っていただき、「穂の国の高校生たち」に対する印象や、大事にしていたことなどを伺いました。

Q ワークショップ
オーディションで初めて
会った時の印象は？

A 「オーディション」という言葉に飲まれてしまい、萎縮していたように見えました。

Q 方言については
どう感じましたか？

A きつい子もいれば、使わない子もいてばらつきがあると感じました。学年感を取り払って全員が横並びの関係になると、方言が増えましたね。

Q いろんなことに
困りましたか？

A みんな忙しくて、全員のスケジュールを合わせるのが本当に大変でした。

Q 稽古を始めてみて、「役者」としての
高校生の印象は？

A こちらが直球で投げる言葉に対して、みんな真正面からそのまま受け止めようと一生懸命でした。そして、厳しさに対する許容度がとても高く、こちらの出す高い要求に対してどうにかして越えようとしてくれました。そんな風に、こちらが演劇を作る上で当たり前に感じてしまいつつあることを、一から新鮮に取り組んでくれる姿に刺激を受けました。

Q 高校生たちと
作品作りを
するに当たって、
どんなことを大事に
しましたか？

A 高校生がやるのならば、作品作りをする全員がやりがいや面白さを感じられるように

しなくてはいけない、と考えました。他には、全体が目指す方向性や、作品づくりをする中でベースを全体で共有することを大事にしました。

Q 高校生たちと
向き合いましたか？

A 個人個人の悩み相談に対して、ひとりひとり時間を作って聞くようにしました。そのために乗らなくてはならない新幹線を逃すこともありましたが、(笑) また、これだけ人数がいると、ふわっとした子もいれば、本腰を入れてやりたいという子もいます。その中においては、本腰を入れて頑張りたいという人に基準を合わせるのがいいかと、ちゃんと厳しくやったほうがいいかと判断しました。その結果、本腰を入れてやっている子がふわっとした子に働きかけるような状況も生まれ、ふわっとした子がきちんとしなくては...と思いを新たにすることがありました。

高校生たちのその後

それぞれに就職、進学・進級する中で、穂の国とは芸術劇場PLATを始め、この公演で生まれた関係性を大事にしているようです。PLATが主催する市民劇に引き続き参加をしたり、PLATをはじめ周辺地域で行われる演劇やダンスのワークショップに参加したりするなど、自ら演劇やパフォーマンスに興味をもち参加することもできるようです。また、参加するだけではなく、PLATで上演される公演にも興味を示し、観劇に訪れることも。さらには、今回の演出家である広田淳一さんが主宰する劇団「アマヤドリ」が東京で行っている演劇ワークショップに出向いて参加する人たちもいるとのこと。このように、この公演がきっかけとなり出会った劇場、劇団、演劇を入口に、その間口を広げているようです。

高校生スタッフ

興儀翔也

1 よき君はWSの4日目に突然やって来ました。最初は一言もしゃべらず声帯を使っていまらなかった。ですが、今はみんなの前で投げキッスを披露できるまで馴染んで楽しんでます。2 安達大凱 3 今番はまっていることは、リズムゲームのeubeeというゲームです。20年後の自分は、小さなレストランで働いているか、Rainaのコーチをやっているかと思っています。



寺岡 老久

1 いっきゅうは明るく面白くて、みんなのムービーメーカー的な人です。行動も早く、稽古の時に見つけて行動できる人です。2 阿部恵実 3 演劇に関わるのが初の自分は、パッチリ演劇というものにハマっています。20年後の自分を想像してみると色々なパターンが想像できるけど、演劇に何かしらの形で携わってみたいです!!



藤倉 優杏

1 他己紹介 紹介してくれた人 2 今一番はまっていること 3 20年後の自分は何をしていますか？
1 うきようは、いつも真っ先に動いてくれていいヤツだと思っただけです。あと、話しかけやすく相談も普通にできる後輩だと思っただけです。2 中野裕太郎 3 パズドラ！結構ゲームのくせに頭を使うのいい。3 ちゃんと働いて平凡に生活したい。事故なく生きられたらいい。



中野 裕太郎

1 中野はけっこうおとなしうに見えて面白いです!! ちょっとと抜ける所もあるけど、やる時はやる! そんなシャイボーイです。大きい体にして可愛いところあります。2 齋藤彩絵 3 ガンダムのプラモデルを組み立てることと読書しながら音楽を聴くことです。3 20年後の自分はとりあえず就職してちゃんと仕事しているかと思っています。

齋藤 彩絵

1 齋藤先輩は部活でも頼りになって自分から率先して仕事に取り組む頼りになる先輩です。とにかく優しくいい人です。2 藤倉優杏 3 絵を描くこと、漫画を読むこと。最近落書きばかりです。漫画欲しい。3 職も落ち着いて、のんびり暮らしたい。いいな、と思います。結婚願望はありませんがシェアハウスしたいです。



伊藤 渚

1 いつも笑顔で周りのみんなを元気にしてくる子です。とても頼りになり、私たちがキャストも信頼しています。2 彦坂祐衣 3 主にゲーム。スクールアイドルとか艦隊とか。でも弱い。3 東京に出て会社に入ってADとしてバリバリ働いてる!! という理想とついでに結婚したいという願望。



安達 大凱

1 アダTは、いつもいっきゅうと一緒にいて、明るく元気な人です。スタッフだけだと台本の自分がやることを熱心に覚えているすごく熱心な人だと思っています。2 興儀翔也 3 ギターを弾くことに夢中になっています。制限がなかったら何時間でも弾けます。3 まったく想像つきません。しかし、雨風をしのげる場所で暮らせて、自分の好きなことをやれればいいなと思っています。

めぐる世界と女子高生【完全版】

◆ 脚色・演出 広田淳一

「転校生」はある高校の、とある一日を描いた作品です。今回の演出では出演者21名全員、現役の高校生に演じてもらいました。彼女たちが演じたのはどこにでもいそうな日本の、なんてことない、女子高生です。自分という人間がたつた一人の特別な「わたし」であること、普通のありふれた「女子高生」であること、その危ういパランスの上で日常を過ごす彼女たちの力を借りて、スリリングな作品に仕上がったのではないかと思います。物語は、いつの間にか「転校生」になってしまったと言いつける、奇妙な女生徒を軸に進みます。といっても「転校生」の謎が解き明かされるわけでもなく、更なる事件が起こるわけでもありません。いつの間にか「転校生」になつてしまった女生徒を、いつの間にか女子高生になつてしまった生徒たちが受け入れる。ただ、それだけの話です。ですが、この物語は、いつの間にか大人になつてしまった、いつの間にか日本人になつてしまった、いつの間にか人間になつてしまった、私たち自身の物語でもあります。ある朝、目覚めたら奇妙な虫に変身していたザムザのように、ある朝、目覚めたら「あな

た」を演じるようになってしまったすべての「転校生」たちに、楽しんでいただけたら幸いです。『転校生』の演出を引き受けた時にひとつ、決めていたことがあります。それは、女子高生たちを普通の女優と同じように扱う、ということ。私は教育者ではありませんので、子供を教える、という立場では仕事ができないと考えたからです。ただ、稽古を始めてみてすぐに安心しました。彼女たちは一人の、独立した人間でした。もちろん未熟な部分をたくさん抱えた未成年たちだったわけですが、未熟であることにかけては大人たちだつて負けていませんから。というわけで私はいつも以上に充実したバックアップの下に創作に専念することができました。この場を借りて、スタッフのみなさん、お手伝いの高校生、創作のすべてに情熱をもって関わってくださったこの劇場・PLATのみなさん、そして何よりも、ご来場くださったあなたに、心から感謝いたします。

STAFF
作 平田オリザ(20周年)
脚色・演出 広田淳一(アマヤドリ)
美術 杉山 歩
照明 木藤 歩
音響 小笠原康雅(田舎谷フリスコラングラー)
演出助手 笠井里美(アマヤドリ)
村井まこと(20周年)
舞台監督 鈴木 輝(穂の国とは芸術劇場)
音楽操作 平野 彩彩
大道具製作 六尺堂、オサフネ製作所
運搬 植松 ライン
衣装協力 矢野裕子(アマヤドリ)、東京衣裳
宣伝美術 共田慎性(エクスナージュ)
宣伝写真 萩原ヤスオ
記録映像 田中博之
制作 矢作勝義
永田直子
高田 綾子
制作助手 加藤 伸葉(ままごと)
協力 アマヤドリ(20周年)、ままごと、
世田谷フリスコラングラー(穂の国とは芸術劇場PLAT)
企画制作 穂の国とは芸術劇場PLAT
主催/協賛(公) 穂の国とは芸術劇場
助成/自治体連携センター
平成26年度文化庁劇場・音楽室等活性化事業

